

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 07029238 A

(43) Date of publication of application: 31.01.95

(51) Int. Cl.

G11B 11/10  
G11B 11/10  
G11B 11/10

(21) Application number: 05169964

(71) Applicant: HITACHI LTD

(22) Date of filing: 09.07.93

(72) Inventor: KIRINO FUMIYOSHI  
KUGIYA FUMIO

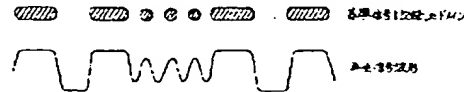
## (54) REPRODUCING METHOD FOR OPTICAL RECORDING

(57) Abstract:

PURPOSE: To enable stable recording and reproducing by detecting a fluctuation in use environment temp. and laser power and controlling the laser power, pulse width, etc., by using the result thereof.

CONSTITUTION: Films are successively formed and laminated by a sputtering method continuously without breaking vacuum to produce recording media. The surface of the produced magneto-optical recording medium is coated with a UV curing resin 5 and two sheets of disk substrates 1 are stuck to each other. Magnetic characteristics change by a temp. rise and the reproducing power is decreased by as much as the increased component of amplitude, i.e., by 0.35mW in this case, if test reproduction is executed and the reproducing power is controlled to 0.85mW in such a manner that the output of the signal amplitude attains the same output of standard conditions. C/N attains 45dB when the same patterns as before are recorded and are then reproduced. The laser power for reproduction is controlled to a preferable value by previously executing the test reproduction, by which the domains of the same regions as the standard conditions are magnetically transferred and the dependency on the environmental temp. does not arise.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO



Japanese Unexamined Patent Publication No. 7-29238/1995  
(Tokukaihei 7-29238) (Published on January 31, 1995)

(A) Relevance to claim.

The following is a translation of a passage related to claim 5 of the present invention.

(B) Translation of the relevant passage.

[EMBODIMENTS]

[...]

[0028] (2) Inputting of standard signal.

A repeating pattern of shortest patterns and longest patterns was recorded in the disk, as standard data, at an innermost circle (radius  $r$  = approximately 30mm), near a midpoint circle ( $r$  = approx. 45mm), and at an outermost circle ( $r$  = approx. 60mm). A schematic drawing thereof is shown in Figure 2. Here, the modulation method used to input the standard signal was the (1,7)RLL method, which is a mark length recording method. The domains for recording of the standard signal in the recording layer were  $0.75\mu\text{m}$  long for the shortest patterns, and  $3.2\mu\text{m}$  long for the longest patterns, and thus the ratio of the long to the short patterns was slightly over 4 times.

Incidentally, it has been confirmed that, in actual use, a ratio of 4 to 5 times is preferable. The foregoing explains an example of recording of the standard signal by the mark length recording method, but it goes without saying that the above-mentioned pit position method is preferable.

[0029] Recording was performed with a disk rotation speed of 3000rpm, a laser of 680nm wavelength, a reproducing power of 1.2mW, and the zone CAV method. The reproducing signal amplitude at that time was, at the innermost circle, 380mV for the shortest patterns and 950mV for the longest patterns. Further, the domains had a width of  $0.45\mu\text{m}$  and lengths of  $0.45\mu\text{m}$  for the shortest patterns and  $3.2\mu\text{m}$  for the longest patterns. The domain interval was equivalent to the domain length in each case. The foregoing, which are values at  $25^{\circ}\text{C}$ , were recorded as standard conditions in the disk and as memory in the recording and reproducing device.

[0030] (3) Results of test reproducing of optical recording.

The disk and the recording and reproducing device were exposed to a  $50^{\circ}\text{C}$  environment. Driving the disk, the standard conditions (standard signal) recorded in the foregoing memory were read, and, based on that

information, the domains in which was recorded the data which provides the standard for the disk were reproduced, and the signal amplitude at that time was measured.

[0031] The results were that, when reproducing according to the standard conditions (reproducing power 1.2mW), the signal amplitude of the standard signal was 1030mV for the longest patterns (950mV under the standard conditions) and 403mV for the shortest patterns (380mV under the standard conditions). This apparently resulted from the higher temperature of the magnetic film 3 at the time of reproducing (50°C) than at the time of inputting the standard signal (25°C), which enlarged the area within which magnetic copying was possible.

[0032] Then, for the purposes of comparison, a repeated shortest pattern was recorded, using (1,7)RLL modulation, without first conducting test reproducing. Reproducing thereof resulted in a carrier/noise ratio (C/N) of 39dB. Then test reproducing was carried out, and reproducing power was controlled to 0.85mW, so that the signal amplitude was the same as under the standard conditions. In other words, reproducing power was reduced by 0.35mW ( $= 1.2\text{mW} - 0.85\text{mW}$ ), an amount corresponding to the increase in amplitude resulting from the change in magnetic characteristics due to the increase in

temperature. Then the same patterns as above were recorded, which, when reproduced, resulted in a carrier/noise ratio (C/N) of 45dB. In this way, by first carrying out test reproducing and controlling reproducing laser power to a preferable value, domains of the same area as under standard conditions could be magnetically copied, thus enabling stable reproducing not dependent on ambient temperature.



成の上昇するために、磁気特性の温度変化により記録層の磁化状態が再生層に転写される。それにより記録層に記録してある情報が、再生層の磁気光学効果に基づいて再生される。ここで、再生光が照射されている再生層の内部に磁気転写されていないので、情報は再生されない。この結果は、トラッキング方向とダイスラの半径方向におけるクロストークを大きく抑制できるので、分解能を大きく増大させることができる。

[0005] なお、この技術に関連するものとしては、例えば、エス・ピー・ブイ・イー、第169巻、オプティカル・テクノロジー、第1巻、第105頁〜第115頁 (SPIE 1395 Optical Data Storage '91, 205-215) が挙げられる。

[0006] 発明が解決しようとする課題] しかしながら、上記従来技術では、使用環境温度やレーザパワー等の記録条件が変動すると、磁気転写が完全に機能しなかったり、記録層の温度が高くなり十分な磁気光学効果が得られない場合があったり、一定の分解能が得られないことがある課題があった。

[0007] 例えば、使用環境温度が変化した場合では、温度が高くなると、記録層の温度が高くなるので、レーザパワーが一定と考えると、磁気転写が生じる部分の面積が大きくなり、トラッキング方向、或いはダイスラの半径方向、または両方向のクロストークが増大するという問題が生じる。

[0008] その結果、目的とする一定の再生再生出力が得られない。クロストークによりエラーやノイズの原因となる場合がある等、高信頼性を有する光磁気ディスクが用いられない場合があった。この他、記録再生用のレーザパワーが変動した場合は、温度は先の使用環境温度が変動した時と同じであった。超高密度光記録の實現にとって、安定した記録再生ができること、特に、磁気記録媒体を用いた光記録装置においては安定した再生ができることが必要であった。

[0009] そこで、本発明の目的は、記録や再生に先立ち、使用環境温度やレーザパワー等の記録条件の変動を検出することにより、常に安定した再生を可能とする改良された光記録の再生方法を提供することにある。

また、本発明の他の目的は、かかる磁気記録媒体を用いた光記録の再生方法を実現するための記録媒体及び磁気記録装置を実現するための光磁気記録装置を提供することにある。

て情報を読み出すに際し、記録層の予め定められた領域に、使用環境条件下で基信号を記録しておき、再生時にこの基信号を一定時間間隔で再生し、その時の再生基信号振幅を計測することにより、得られた信号振幅と使用環境条件下で入力した基信号振幅とを比較して、その差を補償(低減)するように再生光であるレーザパワーを制御し、再生時における外部温度による磁気特性の変化分を修正、低減して常時一定の安定した再生出力が得られるようにしたものである。

[0011] すなわち、磁気記録媒体による光記録の再生方法において、再生時の外部温度条件により影響を受けた磁気特性の変化分を、予め記録層に入力した基信号を再生し、その出力信号振幅を計測して当初の基信号とのレベルもしくはそれに近いレベルの信号が再生されるように再生光であるレーザパワーを制御して再生時に温度補償するものであり、これにより常時好ましい条件下で再生できるようにしたものである。

[0012] 更に具体的に説明すると、信号振幅のわかっていないドメインを再生して、ある一定の信号振幅が得られるようにパワーを校正することにより、使用環境温度変動と磁気特性の温度変化が補正できる。ここで用いる2層の磁性膜を有する光磁気記録媒体は、先に述べたように磁気転写を用いた磁気記録媒体であり、この2層の磁性膜が互いに磁気的に結合した膜を用いている。その場合、先の制御を行なう場合に重要なのが、如何に安定に記録した情報を再生するかであり、そのために本発明は重要であることがわかる。

[0013] すなわち、光磁気記録は温度変動と磁性膜の温度の変化に対して非常に敏感で、高密度記録を実現するためには、最終的には磁性膜の温度の変化をつかむことが重要である。これは、特に、温度変化により再生再生出力が変動すると、パワー変動を行なう場合にも、また、ビットボジション記録を行なう場合にも、ノイズやエラーの原因となるので注意しなければならない。

[0014] 再生時には、調整している記録ドメインによる光学的な歩差を生じない範囲に転写するように再生のためのレーザパワーを制御することが好ましい。例えば、再生レーザパワーが増加すると、記録した情報の磁気が広い範囲で起るのので、側に記録してあるドメインも転写により範囲で起るもので、クロストークが生じる。特に、超高密度記録を実現するために、ビット間隔をつめて記録するので、クロストークの低減が課題である。そこで、磁気転写される部分の面積を制御することが重要である。

[0015] ここで、光磁気記録媒体に記録された情報を再生するのに、レーザ光として微小パルスの集合体よりなるパルス列を用いる事が有効である。それ

は、磁気転写した領域を任意に制御するためである。すなわち、パルス列を用いることにより、主にパルス幅を制御することにより、最初のナノ秒レベルを制御できるので、結果として磁性膜上の温度分布を制御できる。特に、磁気転写が行なえる領域、任意の周方向の長さや半径方向の長さが得られるので、得られた領域のドメインのみを再生できる。

[0016] ここで、例えば、記録時に傾斜より大きいドメインが記録層に形成された場合、通常の手法ではトラッキング方向やトラッキング間のクロストークによりエラーやノイズを生ずる。しかし、本発明の再生方式を用いると、このようなドメインに対しても、再生層に転写される情報は記録層に記録されているドメインパルスに依存しないので一定にできるので、クロストーク等は発生しない。

[0017] ここで、光磁気記録媒体に予め傾斜となる情報(基信号)を記録しておく位置としては、少なくともダイスラの最も内側のトラックと最も外側のトラック及び両者の中間のトラックであり、さらに傾斜にはこれらの結果を用いてこの間にあるトラックの再生条件を決定することが好ましい。回転数一定で回転している光磁気装置では、ダイスラ位置により記録条件が異なる。しかもダイスラ位置により傾斜で変化するとはいえないからである。これは、ダイスラの傾斜傾度や傾いている材料により異なるので、代表的な位置でダイスラ特性を測定して、その他の位置での記録条件はその位置を挟む点からの傾斜により決定する。しかし、傾斜に最も近いのは、ダイスラの最も内側であり、その点を考慮すると光磁気記録媒体に予めセンシングの情報と記録しておく位置として、少なくとも最も内側のトラックに基信号を記録する必要がある。そして、光磁気記録媒体の傾斜傾度、レーザパワー情報を記録するのに先立って、予め記録してある基信号を再生して、その結果により記録条件を決定する。

[0018] 本発明が最も効果があるのは、記録パワーのエッジの部分に情報を記録するパワー記録方式を用いた場合である。なお、パワー記録方式による場合、基信号の傾斜(パルスの長さ)を1としたとき、基信号の長さはその4〜5倍程度が実用的である。この他、光磁気記録媒体に傾斜傾度、レーザパワー情報を記録するのに、円形ドメインを形成して、その信号を記録するに形成した記録ドメインの中心位置を抽出するいわゆるビットボジション記録方式へも適用できることはいうまでもない。

[0019] 光磁気記録媒体の好ましい磁性膜の厚みとしては、再生光の波長において、少なくとも2層よりなる磁性膜を透過する膜厚とすることが信号出力の利得性、低減点から望ましい。これは、カー( Kerr )効果(反射光を放出) 効果(透過光を放出) の両効果を併用できるからである。

[0020] この場合、光入射側と反射側に光受け層を設けて、また、光入射側と反射側にある記録層を反射鏡として併用しても良い。その場合、光入射側の増幅再生層を光が透過する膜厚とすれば良い。このように、磁気光学効果を増大させるための手段であることはいうまでもない。光磁気記録媒体に予め記録しておく情報は(基信号)として、用いる記録方式において最も高い記録速度のパターンを記録することが好ましい。この基信号パターンの場合、情報を再生するのが最も良い条件からである。

[0021] なお、光磁気記録媒体に基信号を入力するタイミングとしては、光磁気記録媒体が完成した時点で製造メーカー側が入力しておくのが実用的であるが、ユーザー側で情報の記録再生時に予め入力してもよい。あるいは、ユーザー側で記録した時に、基信号パターンを記録しておき、再生する時にそのパターンを最初に再生して基信号と比較する方式を用いてもよい。

[0022] この光記録の再生方法を実現するための光磁気記録装置としては、温度補償手段として、光磁気記録媒体に予めある基信号と同一の信号を設け、再生時として再生時に記録した基信号の振幅を比較し、そのずれ量に基づいてレーザパワーの制御出力を制御する手段とを有していることが必要である。例えば、再生時の傾斜傾度では、基信号の入力時の温度より高い温度条件の場合には、無制御で再生すると傾斜が大きくなる。逆に低い温度条件の場合には小さくなる。そこで、再生出力が一定の値になるよう相対の場合には、パワー補償を低下して、後の場合に更に上昇させて制御するようにレーザパワーを制御する。このように基信号を再生し、それをセンシングして適切な制御条件にレーザ光を制御する手段を備えていることが不可欠となる。

[0023] 〔作用〕 本発明によれば、光磁気記録媒体(ディスクと磁頭)の所定の位置へ予め基信号となるセンシング信号を記録しておき、ユーザー情報の記録や再生時には再生に先立ってこの基信号を再生し、得られた信号振幅が一定の値になるようにレーザパワーを制御することで、環境温度変動やレーザパワーの変動による影響をキャンセルできるので、安定した記録再生が可能になるので、超高密度記録を実現できる。

[0024] 〔実施例〕 以下、本発明の一例を説明にしたがって詳細に説明する。

〔実施例1〕

(1) 光磁気記録媒体の作成

図1は、本実施例において試作したダイスラの断面構造を示す断面図である。なお、実際にはダイスラの両面に光磁気記録媒体が設けられているが、この図は説明を単純にするためにその一方の面の断面構造を示している。



(10025) 同の系を調べるが、 $\gamma$ -サイズの蒸留上により、オクタジエンを約3%の割合にエタノール中に溶解し、更に、3層よりなる密付膜を形成した。まず、四角膜として、Gel-Pco膜を20mmの厚さにエタノール中に形成した。次に、交差結合が膜の3-として、花びら状膜を20mmの厚さに形成した。そして、最後に、花びら膜として、InP-Co膜を20mmの厚さにエタノール中に形成した。

[illegible]

の間に、また、再び、東北シロコウの成虫は150mmの長さに、 $3 \times 7$  mm 状により形成した。配列模様の作製には、途中直交を繰り返すことにより、連続的に、配列模様に面を形成し得た。このようにして作製した光學配列模様の表面を、紫外線照射の照射面によりコートした。その際、配列模様の有する面が面外方向を合方向とした。2枚のデカメタ薄膜（）を組合わせた時、紫外線を照射することにより両面を紫外線透過型ガラスで覆蓋し、切り合わた。

(1002.8) (2) 炭素管の入り口  
この管は、その最内層が直径 30mm 付近、中間付近 40mm 付近、そして、最外層が 50mm 付近に、それぞれ炭素管として、炭素管の構造の異なるものを重ね合わせられて記された。その構造図を図 2 に示す。ここで、炭素管を人力する方式としては、炭素管記号を記された 0.102L 方式を用いた。記号は、炭素管記号を記された 2.5mm の炭素管の長さ 0.15mm、炭素管の長さ 0.3mm とし、炭素管の長さ 0.45mm とした。なお、この比は実用的には 0.5 倍が好ましいことを認識している。ここでは炭素管の記号方式として、炭素管記号方式の例を示したが、前述のビシラ方式と、炭素管記号方式が好ましいことは言うまでもない。

【0029】マインズの同族数は1000fpm、肩いたレーザの深さは450mm、再生のパワーは1.2mw、ポンプC/Aの速度をそれぞれ用いて記録した。その時の再生像の解像度は、肩いた同族数に3倍して、肩いたパワーが3000fpmであり、肩いたパワーが9000fpmであった。また、ドメインマインズは幅が0.45mm、長さか肩いたパワーが0.45mm、肩いたパワーが300fpmである。また、ドメインマインズはそれぞれパワーと肩いたと肩いた、これは、25度におおむね垂直な方向にマインズ及び記録再生装置にマインズとして記録した。

【0030】(3) 光記録の再生試験結果  
このデマスタ及び記録再生装置を50℃の環境中に放置した。デマスを記録し、先のメモリーへ転記した再生条件(基準信号)を読みだし、その情報をもとに、デマスタの基準となる情報を読み取られている状態を再生し、その時の信号振幅を測定した。

【0031】その結果、まず、通話条件（再生パターン1）で再生したときの基準信号の信号振幅は、基準パターンが1010mV（通話条件では350mV）であった。これは図12の特性の温度が、基準信号入力時の37℃から再生時には50℃と高くなったために、励振振子が行なえる領域が広くなったためであると考えられる。

(100.3) そこで、比較のためにラットを産む行なうを記録し、それを両生とするとき、キアリオノイズは $N/N$ に350eであった。これに対して、テストを産むを行なう場合の出力を律則条件と同じになるように両生バグ(つまり、温度上昇により虫食が特性に変化して頻度が増大した分に相当する)として、先と同様に、 $0.35m (=1.2m \times 0.85m)$  変換した。このように、予めデフォルトでは $N/N$ は360eであった。このように、予めデータを生成して、両生のレーザパターンをそのままの順に制御することにより、標準条件と同じ種類のドメインを抽出することができる。環境温度に依存しない安定した両生が可能になる。

〔10033〕(芝蔴油)次に、別の芝蔴油について述べる。本芝蔴油において用いた両生油を主成分として、マルチチオールを用いた。このオールを用いることにより、両生油に記述層の情報を両生油へ吸収させる場合には、転写する領域を任意に選択できる。特に、狭小領域の転写が可能になるので、クロマトークを大きく低減できる。分析能を大きく向上できる。そこで、図に示す情報積層のデータスルを用いて、マルチチオールによる両生油を採取した。

【0003】「デイスカ」には、予め、先の裏面図1と同じ構造を記録しておいた、すなわち、デイスカの案内所14の径、 $r_1=5.0\text{mm}$ 付近、中間径 $r_2=15.0\text{mm}$ 付近、そして、最外周 $r_3=60.0\text{mm}$ 付近にそれぞれ、最粗パターンと最良パターンとの対応したパターンを案内情報として記録した。その構造図は図2に示すとおりである。ここで、案内所14の径として、17.0mm方式を用いた。この案内所14は最良記録を行なう上で、S/N比改善がノイズ低減的に有利である。デイスカの回転数は3000rpm、用いたレーザー光の波長は650nm、再生ヘッドレーザーパワーは1.2mW(連続発光)、ゾーンC/V方式をそれぞれ用いて記録した。その時の信号振幅は、案内所14位置で、最良が約315mVであり、また、最良パターンが90mVであった。また、再生ヘッドの径は4.0、4.5mm、長さがある程度パターンが

0.45  $\mu$ m、炭素バターンが2.3  $\mu$ mである。また、ドメイン間隔はそれぞれドメイン長と同ーにした。

【0035】この予め記録したある符号をデジタル化して再生した。ここで、用いたパルス波の形状は、レーザービームが15nm、パルス幅60nsで、パルスとパルスの間隔は70nsである。ここで、用いるパルス形状は、用いる発光媒体の種類や構成する材料等には依存しない。図8の構造により選択された良い、マルチパルスを用いた再生は最も近いレーザ光を用いるほどに有利となる。これは、光の波長が短くなるほどパルス密度が高くなるので、再生時における記録データの読取を防ぐためである。そして、この発光情報を読み出せる部分データを再生し、その結果を用いて、再生機出力部から光信号として出てくるようにパルス幅とパルス数の関係、或いは、再生レーザパワーを制御すればよい。すなわち、平均パワーが常に一定となるように、例えばパルス幅とパルス数関係を一定にしてパルスを発生させるか、もしくはパワーを一定にしてパルス幅とパルス数を調整させればよいが、この例では前者の方法を採用した。

【00036】として、使用環境温度は35度、この温度を標準条件として、信号振幅を記録再生装置及びビデオの一定範囲に記録しておいた。再生技術のために、この装置及びビデオを0度の環境中へ放置した。この条件にて予めビデオへ記録してある標準データを再生した。その結果、常時所定位置で、最長バツタ（約255mm）（標準条件では315mm）であり、また、最長バツタの角が約15度であった。これは、再生時の温度が低くなったために、磁気解写される磁域が狭くなったためであると考えられる。



- 1.....アクリル系
- 2.....架橋反応性
- 3.....反応性
- 3-1.....Gd<sup>3+</sup>/Fe<sup>3+</sup>/Co<sup>3+</sup>
- 3-2.....Gd<sup>3+</sup>/Fe<sup>3+</sup>/Co<sup>3+</sup>
- 3-3.....1/FrCo<sup>3+</sup>
- 4.....架橋反応性
- 5.....架橋反応性

[illegible]

(図面の簡単な説明)  
 [図1] チェックの断面形状を示す模式図。  
 [図2] チェックを成形した基板上となる最厚バネ部と最底バネ部のフェイルト所を点滅に示す平面図。  
 図面を記した欄式図。  
 【符号の説明】  
 1…チェックの基板、2…変位リボン部、3…変位リボンの溝、4…変位リボンの角、5…変位リボンの側面形。

1..... $\text{Fe}_2\text{O}_3$  赤鉄  
 2..... $\text{Fe}_3\text{O}_4$  黒鉄  
 3..... $\text{FeCO}_3$  鉄礬  
 3-1..... $\text{FeCO}_3 \cdot \text{H}_2\text{O}$   
 3-2..... $\text{FeCO}_3 \cdot 10\text{H}_2\text{O}$   
 3-3..... $\text{FeCO}_3 \cdot 7\text{H}_2\text{O}$   
 4..... $\text{Fe}_2(\text{SO}_4)_3$  礬  
 5..... $\text{Fe}_2(\text{SO}_4)_3 \cdot 9\text{H}_2\text{O}$

}

(7)

特開平7-29238

(図2)

図2

